



「若者の立場からみえる部落差別」内屋綾さん

みちしるべ

第124号

人権・同和教育啓発広報
人権同和政策課
☎ 22-7506
同和教育・啓発推進会議



市では、同和教育をはじめ、さまざまな人権課題の解決をめざして、教育・啓発に取り組んでいます。今回は、8月に開催しました「同和教育講演会」と9月に開催しました「人権・同和教育基礎講座（第1回）」の様子を紹介します。

第46回出雲市同和教育講演会

8月24日、市民会館で、部落解放同盟福岡市協議会事務局員の内屋綾さんをお迎えし、「若者の立場からみえる部落差別」と題して講演をいただきました。

自身の部落差別を受けてきた辛い体験や、一緒に活動をしている高校生たちとの活動をとおして感じる将来の明るい展望など、熱くエネルギーに話すその姿に約900人の参加者の皆さんは、熱心に聞き入りました。

に聞き入りました。

内屋さんは講演の中で、「差別される側がいるから差別があるわけではなく、差別する側がいるから差別される側ができるんです。いつ自分が差別する側になるかわからないということを考えれば、自分には関係ない差別なんかこの世に一つもありません。全ての差別が自分に関係するものになります。自分自身が差別をしない生き方を選ぶために学び続けたいといけないんです。知らないから人が人を差別する。だからこそ知ったうえで、差別をしない生き方を選ぶことが私は一番大事なことで、差別をしないかと思っています。正しいことをきちんと知って、何が差別になる

のかを見抜く力をつけることが、差別をなくすことにつながっていくんだということに、一緒に活動している同和地区外の高校生の言葉から学ぶことができました。こういった高校生たちが今、全国的に増えています。こういう子が増えれば増えるほど、差別がなくなる日が近いのではないかと思っています。ちょっとでも立ち止まって、自分が今しようとしていることってどうなのかなということを考えて力を育てることが一番大事なことだと思えば、差別をしない、許さない子どもたちを育てていくことが、希望がある未来につながっていくんじゃないかなと思っていま

す。まずは自分自身から差別をしない生き方を選ぶために、私もともに学び続けていきたいと思っています。」と熱く語られました。



参加者の声

*「差別は差別する側の問題」この言葉は自分の生き方につきささります。自分のこととして考えながら、日々成長していきたいと思えました。

*差別に対する正しい知識の必要性をさらに強く感じ、勇気、力をもらいました。

*内屋さんのまっすぐな生き方に、自分のあり方を問い直す契機になりました。何気ない自分の言葉に傷ついている人はいないのか、自分自身に問ひかけながら生きていきたいです。

*自分の娘と同じ年齢の方の差別体験を聞くことはとても辛く、未だに厳しい差別があることにはがく然としました。差別をなくすために勉強をして、差別をしない生き方をしたいと思いました。

*「人は少なからず差別をする。気づいた時にどう行動するかが問われる」という言葉を聞いて、自分の生き方をあらためて振り返りました。あらゆる場面で自分自身人を差別したり、偏見を持つたりしてしまいが、「差別をしない生き方」を選んでいきたいと思える講演会でした。差別をしない方が人生良いことが多いというのは、本当にそうだなと思いました。

人権・同和教育基礎講座



と女性（阪神・淡路大震災の経験は活かされたのか？）と題して講演をいただきました。

正井さんは講演の中で、「阪神・淡路大震災直後に開設した「女性のための電話相談」の約6割がDV（配偶者からの暴力）の相談でした。たった一人でDVから逃

さまざまな人権問題をテーマに講師を招き、年4回シリーズで講座を開催しています。現在2回実施しましたが、今年度も100人を超える人が受講しています。

今回紹介します第1回目は、9月7日、市役所で、NPO法人ウイメンズネット・こうべ代表理事の正井礼子さんを講師にお迎えし、「災害

れることはすぐ難しく、多くの人の支援がなければ、DV被害者は暴力から逃れることはできません。DVは女性の人権侵害だけでなく、それを目撃する子ども達にとっても心理的な虐待です。DVは災害が起きたからといって急に起こったわけではなく、実は多くのDVは震災前から起こっていたのです。それが災害の中で、避難所に来たり、

仮設住宅に来たりしたことで周囲が気づき、今まで潜在化していたことが災害時に表に出てきたということがありました。子どもへの虐待も同じで、日常的にあった虐待が、災害に遭って初めて明るみに出たということもありました。

DVについて普段からきちんと啓発されていれば、自分が暴力を受けていると自覚することができるとし、加害者も自分の暴力に気がつくことができます。災害時にだけ福祉が充実するわけでも、災害時に突然女性が大事にされるわけでもありません。普段からどれだけ地域のことや人権問題について知っているかということが防災につながるということとをぜひ知ってほしいと思います。」と強く語られました。

人権・同和教育基礎講座の第3回は、作家の寮美千子さんをお迎



えし、講演していただきます。寮さんは、奈良少年刑務所の更生教育である「社会性涵養プログラム」で「童話と詩」の担当講師をしておられ、この教室から生まれた受刑者たちの作品を中心とした詩集「空が青いから白を選んだのです」を編集されました。幼い彼らが罪を犯すことを防ぐために、家庭や学校、地域社会において私たちは何ができるのか、この機会に一緒に考えてみませんか。

人権・同和教育基礎講座

第3回

とき 12月7日(土) 9:30~11:30

ところ 市役所 くにびき大ホール

講師 寮美千子さん (作家)

演題 「詩が開いた心の扉」～空が青いから白を選んだのです 奈良少年刑務所詩集～



おたすね／人権同和政策課
☎(22)7506